

◇ 講演 ◇

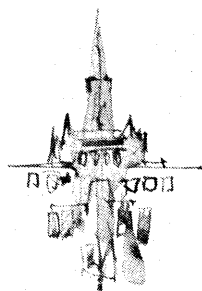
大石さんの話の前に

大石武一元環境庁長官が十時に確実に来るという電話がきのうありました。で、ぼくが二十分ぐらい雑談をします。私は今年のこの集まりで幼児教育と縁を切ります。解放されます。それで私にとっては最後の講習会の最終日、環境の問題に来るわけです。この四日間の計画は、天のめぐみのように、たいへんうまくいっていると私は思います。

今度のこの催しの最初の二日間は session というか、考えるためのヒントを与えてくれたんですね。きのうはちよつと風変りな人が来て session という、暗示を与えてくれる、考えるヒントというよりも、少し間抜けに見えるような、まじめな同僚の士がきのう話してくれたわけです。

環境問題——日本人の冷たさ

周 郷 博



で、四日目の今日、大石さんが話すのは、どういふことを話してくれるのかわからないけども、大石さんはぼくは東大でないということは知っていましたけども、帝国大学でもない方がいいと思っていましたけど、東北大を昭和九年の卒業です。医学部です。で、どういふ話をするにしても大石さんという人は誠実な人です。自民党の長官というのは大臣のことですがイギリス、フランスでは環境大臣といっている。日本はまだ長官と言っている。こんなにひどい公害国であるにもかかわらず大臣ってものを置いてません。環境大臣というものを、ヨーロッパのどの国でも置いてます。

その環境問題をどういうふうに話すかはわかりませんが、教育というのは、この環境の中で行なわれないことは確かですよ。学校というものをたくさん作れば、幼稚園をたくさん作れば、どんなに環境が汚染されていても教育は成り立つということもんじゃないんです。もっとわれわれは環境のことを考えなきゃいけないと思うんです。もちろんこの問題の中には四日市のように、企業家の思い上がった、これは日本独特の考え方なんですね、ドイツの人が書いています。日本人はすぐそばに病気の人がいても何も感じないで済む特殊な国民だそうだね。どんなに口でうまいことを言っても、そういう所がわれわれ全部の中にあります。ぼくは、なんか日本の伝統と関係があると思うの。戦争に勝てばいいんで、死のうとどうしようと、そういうことにかまっておれない。勝てばいいんで、これは日本独得です。それは、人を失って済むものではないのに、われわれ自身の中にすぐ隣の人が病気で死にかけていてもなんとも思わないという精神を持っています。医者だってそうです。死のうとどうしようかと、ちゃんと金取ればいいと思っています。

今度ヨーロッパに行つて、タマニエ君というあいの子の青年と（彼は元気がよくて、ヨーロッパにたくさんさんの友だちがいて、果物なんかばくに買ってくれたりして）たいへん楽しくしてい

たんです。ところがスイスへ行ったら、彼はついにおなか痛くてしょうがなくなっちゃって、夜の一時ごろ、ぼくはお医者さんを頼みました。そしてら一時ごろ来ましたよ医者が。ぼくは隣のベッドから見てたんですけど、この医者は、夜あんなに遅いの、実に親切なんです。病気になるっている人に呼びかけ方が違うね。日本の医者はふんぞり返っているでしよう学校の先生とよく似ているのよ（笑）。それで非常によく見てくれるの。そして三十分ぐらいよく見てそして最後に注射しました。だから診断も間違つてなくて、その注射一本でスツと完全に直りました。ただしお金は高かったんだなあ。日本のお金だと一万三千円ぐらい取られました。それは外国人だからかもしれないけれど、ただ医者というものが親切なのに感心しました。日本人にはああいふ精神がないように思いました。つまりヒューマンタッチというものは日本人にはないですよ。勉強した人ほどそれが無いのね。

だからぼくは環境の問題などにしても、これだけひどい状態なのに、日本は平気のへいぎでいられるのね。だからもちろん経済の問題と関係があります。政治の問題とも関係あります。中国の人は考えれば考えるほど愛情のこもっているようなことを言いますね。田中総理がハワイでニクソンと会うわけですね。

ソ連はソ連で中国と接近することを気にしているわけです。少なくともそういうことで、最近とみに世界中が、アメリカとソ連が中心で動いているなんてことはなくなってきました。今度三極構造なんて言いますが、中国がもう一つの大国になるってことは私はないと思います。ソ連、アメリカとはちがうわけです。私は多極構造というよりも、世界中の国民が自主性を持った状態ができるんじゃないかと思うんです。中国がその状態で欲求しているのは、日本とアメリカが交渉しても、当然必要があれば交渉してもいいんですけど、日本が独立国であるという条件のもとに、つまりアメリカ一辺倒でアメリカにおんぶしているというんじゃないかと、もっと悪いことばで言えばチユー政権のように国であるという条件があれば、どの国と交渉してもいいと。なんと大国ですか、その態度は。そのことを考えてみればわれわれは、二十五年の惰性のように行っちゃいけないわけです。

独立心

そのことを考えると、われわれ自身の中に独立心を持たなきゃいけないわけです。文部省がこうやったから、私はまあ、それに合った線ですといういいかげんな線で行動しち

ゃいけないんだと思います。あのね、文部省はね、今の子どもたちが、三十歳になった時の幸福を保障しているんですか？保障しないでしょ。人生の生きがいを保障しないでしょ。

しかしね何も文部省にさからう必要はない。文部省がやるべきことはやってもらいたいわけですし、協調していいわけで、今までのように天皇制の次の状態、占領軍に変わったような形での文部省依存をするべきではないと思うんです。批判すべきことは、イデオロギーではなくてちゃんと批判できる心をみんながもたなくちゃいけないんで、独立心を教師たちが持たなくちゃいけないし、そしてこれから育っていく子どもたちに独立心と共に世界の市民として生きてゆけるように育って欲しいと思うんです。それはこのような惰性でやっている教育ではできないと思うんです。今度ロンドンに行ったのも、そのことと関係があることですけど、ちょっと爆発的なこと、ヨーロッパでは非常に重要な問題なんですけど、それをあとの時間で話そうと思います。

義務

でも簡単に考えても、戦後テレビがこんなに普及して、印刷物、子どもの本なんかこんなにたくさん出て幼稚園がこんなに

たくさんできて、大学生が幼稚園の生徒の数くらい増えたけど、何がよくなったんですか。よくなったものは一つもないでしょ。なんか間違ったものがエスカレートしてこれ以上エスカレートしたら、悪い状態がもっととり返しつかない所へ行っちゃうわけです。だから今のような学校が増えるということを考えちゃいけないわけです。もっと質の違うことをしなくてはいいんです。これがわかるでしょうか。私は教師だから一生懸命やりましたということは、ちっともその人が人間として生きたという印にはならないんです。世間的には合っているんです。

世間的には責任を果たした。だから、責任というのは、他の人との関係、特に日本で言えば自分より上役の人との関係で責任というものはあるのです。他の人との関係です。

義務というのは人がいなくなつてやらねばならないところがあるんです。そういうものが日本人にはないと思います。いつも上司、上役、世間との関係で責任というのを適当にごま化しながらやっているんです。世間がなくなつたって、上役がなくなつたって義務というものはあるわけでしょ。今、シモーヌ・ペイユが言ったように人類に対する義務を考えるべきです。公害問題なんてまさにそう思うんです。大石さんの気持ちなんかそれに合うと思うんです。人類に対する義務というものを感ずるべ

きなんです。死んでも離れられないもんなんです。そしてそれを、義務を果たしたということはその人の生きがいであり、生きた意味だと思うんです。ぼくは、そういう気持ちが動いてくると人と人との関係ももっと、…関係が楽になると思います。個人的な肩書きとか地位とかに責められなくて済むようになる。人間が一緒に助け合つて、それぞれの人間の義務を果たしているという、喜びの中に入ることができるわけです。

めざめた人

大石さんは本当にぼくはなんと好きです。顔もいいわね（笑い）誠実ですよ。政略ではないんですよ。今二つの言葉を使いましたけど、ぼくらの心の中にも政略というものはかなり巣食っています。これは捨てなきゃいけないと思うんだ。政略というものをわれわれの心から捨てて、人におべんちゃんか言つたりして、一生をすごすむなしさというものを捨ててみたいと思います。で誠実というもので生きてみたいと思います。大石さんが来たあとは、その話と無関係な話はできません。そうでしょう。人は助け合っているんですからね。光の干渉みたいなもんです。ここに光があつて、ここに元の光があれば、ここでひとつ元の光は影響を受けるわけです。

あとこの夏に話した大石さんを含めたすべての人の話をまとめて、私の話をしてみたいと思うんですけどね。これちょっと大変なんです。たぶんうまく話ができないと思うんです。それであんまり話をうまくしない方がいいんじゃないかね。(笑い) あんまりよくしちゃうとそれで終りになっちゃうのね。しかし、それから今度、それが終わった後で心の中で対話が始まったらしいのね。

私は四日間ずっと思っていたんだけど、これちょっと聞いて下さい。私はめざめた人でありたいいつも思っている。でもね、めざめた人であるということは、つらいことなんだと感じるし、めざめた人であるということは、そう簡単にできないんだ。誘惑が多くて、そして怠け者で、でも私の気持ちには、今度ロンドンに行つて帰つてきて、なおその気持ちが強くあります。私はめざめた人でありたいという気持ちが激しくあります。それは先人感とかうぬぼれがあったのでは、とてもめざめた人にはなれないわけなんです。お金さえも有り過ぎてはいけません。

今十時になりましたけど。十五分遅れて確実に来ると思いますが、十分ぐらい中断しているのはどうでしょうか。ここはもう、形式的にお祈りしてなさいというのはだめだね。でもぼ

くはね、やっぱりお祈りしているとかの時間が、瞑想しているとか、日本にはないのね。お祈りというのも、実に形式的で、実にわがまま勝手なものです。お祈りというのは、だれか神様に頼んで、わがまま勝手にご利益をもらいたいなんて。そんなの神様が聞いているわけですよ。(笑い)そうじゃなくて、自分の心をはっきりさせるということです。不浄なものを払いのけるということです。先人感をなくすということです。本当のことを受け入れる器になるということです。

〈拍手〉

